40. 検診で発見された胃 MALT リンパ腫と思われる1例

笠貫順二，光永裕子，金子良一
江原和枝，山野　元，田辺邦彦
（船橋中央・健康管理センター）
大久保春男　（同・病理部）
藤本　茂　（同・外科）

症例は52歳男性。検診の胃 X 線・内視鏡検査で胃体部に潰瘍あり，胃のヘリコバクター・ピロリ菌は陽性。通常の生検鉗子の組織像はグループ 3 で確診できず，大型の生検鉗子 FB13K による Jumbo biopsy を施行。その組織像で MALT リンパ腫の特徴である Lymph-epithelial lesion が認められた。除菌後潰瘍は瘢痕化し，生検組織はリンパ腫の細胞は消失し，胃炎のみになっていた。

41. 膵頭部癌に対する Expandable metalic stent と RALS 療法併用の臨床成績

大久保裕司，岩居　武，国府田桂子
国吉　孝，岸　幹夫，関　秀一
千葉省三　（横浜労災）

閉塞性黄疸にて発症した膵頭部癌 6 例（STAGE Ⅲ～Ⅳ）に expandable metalic stent（EMS）を用いた内瘻化と remote afterloading system（RALS）を併用した EMS の開存期間，合併症の有無，生存期間，Q.O.L. についてその有用性を検討した。EMS の閉塞，合併症は無く生存期間，Q.O.L. もバイパス手術に劣らないものと思われ，RALS 併用が EMS の開存に寄与しているものと思われた。

42. 血中，尿中アミラーゼ高値例における ERCP の意義について

岩居　武，国吉　孝，国府田桂子
大久保裕司，岸　幹夫，関　秀一
千葉省三　（横浜労災）

（目的）早期膵癌の発見には ERCP は有効である。今回アミラーゼ（以下 AMY）が異常高値を示す症例に ERCP を施行し，早期膵癌の発見の有効性を検討した。
（対象）AMY 異常高値にて依頼された ERCP 71例
（結果）慢性膵炎 8 例，膵胆管合流異常 2 例，膵管狭窄 3 例（1 例は膵体部癌）の異常所見を認めた。
（結語）膵癌 1 例，合流異常症 2 例が発見された。AMY が異常高値を示す症例には ERCP を施行すべきと考えられた。

43. 末期に急性骨髄性白血病（Mo）に類する急性転化をきたし，多発性腫瘍塞栓を呈した本態性血小板血症

石塚保弘，佐藤良一，斉藤康栄
佐藤重明　（鹿島労災）
岩瀬裕郷　（同・病理）

症例は60歳女性。本態性血小板血症診断 8 年後腹痛を主訴に来院。巨大脾腫，腹水を認めた。WBC 116050／μl で複雑な染色体異常を示し，骨髄は著明に線維化していた。Hydroxycarbamide を用いて治療したが，白血化して死亡した。芽球はペルオキシダーゼ陰性，CD13陽性で急性骨髄性白血病（MO）に類似した。死後の剖検では全身の多発性腫瘍塞栓を認めた。白血病の腫瘍塞栓は文献上報告はない。

44. 当院における悪性リンパ腫の現況

和泉紀彦，小野田昌弘，脇田　久
柳沢孝夫，松岡祐之（成田赤十字）

90年から96年までの過去 7 年間に当科を受診した悪性リンパ腫全63症例について診断，予後因子，治療成績を解析した。

結果患者数は増加傾向にあり NHL が大半をしめ中悪性度群が多数を占めている。NHL では高齢者，進行病期例，PS 低下例多く，治療成績が不良となっている。今後，高齢者を対象とした治療戦略，早期診断，早期治療が重要な課題であり，そのために診療ネットワークの構築も急務と思われる。

45. 異常ヘモグロビン症 Hb Lepore の 1 例

橋口正一郎，川野英一郎，山本和男
石原弘行，伴　俊明，姫野雄司
（国保国吉）

症例は64歳女性。鉄欠乏を伴わない小球性赤血球症を指摘され精査。ヘモグロビンの電気泳動にて異常 β 鎖を確認し，ペプチドマップを行った結果，N 末端側が δ 鎖，C 末端側が β 鎖より成っていた。DNA 解析では，codon 88～106までの間の部位で δ 鎖と β 鎖が融合しており，Hb Lepore 症（Washington-Boston 型）と診断された。

Hb Lepore 症は δ β サラセミア症候群に分類される稀な異常ヘモグロビン症であり，本例は，本邦初の報告である。